

近畿圏における強震動予測のための地盤・地殻構造モデルの構築と検証

Construction of basin and crustal structure model for strong ground motion simulation in Kinki, Japan

岩田 知孝 [1]; 香川 敬生 [2]; Petukhin Anatoly[2]; 大西 良広 [3]; 岩城 麻子 [1]

Tomotaka Iwata[1]; Takao Kagawa[2]; Anatoly Petukhin[2]; Yoshihiro Onishi[3]; Asako Iwaki[1]

[1] 京大・防災研; [2] 地盤研究財団; [3] 地盤研究財団

[1] DPRI, Kyoto Univ.; [2] G.R.I.; [3] Geo-Research Institute

近畿圏に被害を及ぼす海溝型巨大地震および内陸地震による強震動を推計するための、地殻、堆積層構造モデルの構築と高度化を行う。大阪平野、京都盆地、近江盆地、奈良盆地の堆積層を対象として、これまでの地盤情報を整理するとともに、情報の少ない領域において常時微動を用いた構造調査によりコントロールポイントを増やしている。また、大阪、京都、奈良盆地は連続的なモデルに更新した。作成した地盤・地殻構造モデルに対して、地震観測記録のモデリングを行い、構造モデルの検証をおこなっている。

本研究は文部科学省研究「大都市圏地殻構造調査研究」のうち「近畿圏広角反射法・屈折法地震探査等の大深度弾性波探査と断層モデル等の構築」によってサポートされている。